

若手軸に新パーパス策定

事業に落とし込み達成目指す

伊藤忠建材

話題

伊藤忠建材（東京本社）が、新たなパーパス「実りある豊かな未来への架け橋となる」を策定した。

都 関野博（社長）

「実りある豊かな未来への架け橋となる」を策定した。

新パーパスは、これまでの「つなぐつくるこたえる」のパーパスストーリーを引き継ぎながら、「会社として新しい存在意義を



実りある豊かな未来への
架け橋となる



社内プロジェクトを発足し、これからを担う社員が議論を深めた（写真はプロジェクトメンバー）

社内プロジェクトを発足し、これからを担う社員が議論を深めた（写真はプロジェクトメンバー）

9月から本格的に活動を始め、コンサルティング会社を交えながら、侃々諤々（かんかんがくがく）の議論を交わしてきたという。

5月には全社会議で新パーパスを発表。さらに、イメージビデオとともに特設ホームページ

9月から本格的に活動を始め、コンサルティング会社を交えながら、侃々諤々（かんかんがくがく）の議論を交わしてきたという。

5月には全社会議で新パーパスを発表。さらに、イメージビデオとともに特設ホームページ

プロジェクトを開始した。事業推進の源にあるのは「ビジネスで社会課題を解決していく」（同社）という思いだ。プロジェクトの中心メンバーは、次世代を担う課長クラス（当時）。

9月からは、次世代を担う課長クラス（当時）。

シボルマークには、コーポレートカラーのオレンジ色を基調に「大地に根を張り全世界に」（同社）を表現するような大樹がそびえ、SDGsの17色を果実のように円で配した。

ひと際大きな円がマテリアリティ（重要課題）を表している。同社は、来月をめどに6つのマテリアリティを基盤に、アクションプログラムの策定を進めている。

中心となるのは新パーパスを策定した課長より5〜10歳若手の社員だ。実際にどういったビジネスでパーパスを達成し、社会課題を解決していくかの議論を深めている。